

# 「考え、議論する道徳」の実現を目指した授業実践 —反転授業用シナリオベース教材を活用して—

大神 直樹(10117016)

## 1. はじめに

平成 27 年に道徳が教科化され、「特別の教科 道徳」が平成 30 年度より全面施行となった。文部科学省(2016)は、これまでの道徳における心情理解に偏った授業展開について、「児童が主体的に臨めていない」と指摘した。そこで、道徳的価値を自分事として多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」への転換が解決策として挙げられた。

一方、デジタル教材を用いた自宅での学習によって知識を習得し、教室では学んだ知識の確認や議論などを行う授業形態として、反転授業が注目を集めている(重田 2014)。そこで、瀬戸崎・三重野(2020)は、「特別の教科 道徳」における、家庭学習を想定した反転授業用シナリオベース教材を開発した。評価の結果、家庭学習で内容を理解し、自分の意見を持つことで、学校での議論の時間を多く確保できる可能性を示した。改善点として、学習の見通しを与えるような導入場面を設定することや、授業中に学習者の思考を深める手立てについて検討することが挙げられた。

したがって、本研究では反転授業用シナリオベース教材を活用した「特別の教科 道徳」において、授業における有用性と課題を明らかにすることを目的とした。

## 2. 実践・評価方法

本研究では、瀬戸崎・三重野(2020)が改善点として挙げた、教材の導入場面を追加した。本教材は、物語の内容を把握しながら、出題される発問に回答することで、自分の意見を事前に言語化した上で授業に臨むことをねらいとした。なお、題材として使用した物語は、「かっぱわくわく」(新しいどうとく:東京書籍)であった。本教材を実行すると、アニメーション化された先生が、画面上で授業を進行する。学習者は、物語を読み進めながら、先生からの選択式の質問にマウス操作で回答する。また、一部の発問に対しては、手元のワークシートに自分の考えを記入することとした。

教材の有用性を評価するため、小学 2 年生 3 名(それぞれ、児童 A, B, C とする)を対象に、本教材による学習活動を実践した(図 1 左図)。なお、家庭学習における、個人での学習を想定し、児童らは別々の部屋で本教材を使用した。教材の導入場面では、「親切にするとどのようなことか」について、児童らの考えをワークシートに記入させた。児童らは、本教材での学習後に、教材の操作感についてのアンケートに回答した。

家庭学習を想定した活動後、1 時間程度の休憩を設け、対面授業を実践した。学習のねらいは、「他者のことも考えて親切にすることの良さがわかる」であった。授業の導入場面では、物語の内容理解について確認した後に、児童らと学習のめあてを立てた。次に、「親切にするとどのようなことか」をテーマに議論した。図 1 (右図)に示すように、児童らは、個別の学習として、付箋紙に自分の考えを記入した。さらに、全員で類似した考えと異なる考えに分類しながら議論した。最後に、学習の成果を把握するために、シ

ナリオベース教材の導入場面と同様に「親切にするとどのようなことか」をワークシートに記入させた。また、本実践を終えた後に、3 名の児童らを対象としたアンケート調査および、1 名の児童を対象としたインタビュー調査を実施した。さらに、授業動画に記録された児童らの発話を抽出し、授業評価の基礎データとした。

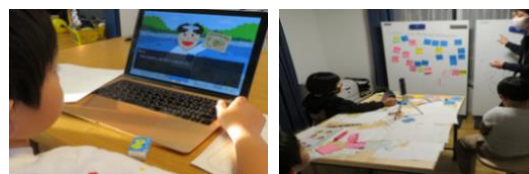


図 1 本教材の操作と授業の様子

## 3. 結果・考察

授業では、物語の内容を児童自ら説明しようとする様子や付箋紙に自分の考えを次々と書く様子が観察された。アンケートでは、「今日の授業でたくさん考えた」について、すべての回答者から肯定回答を得た。また、インタビュー調査において、児童 A は、「すごくいっぱい書けたり、話したりすることができた。」と述べた。したがって、本教材で事前に物語の内容理解ができており、議論するテーマについて、充実した活動ができたと言える。

授業全体を通じて、児童らは「そっちの方がいいかも。」のように他者の意見を受容するような様子が観察された。児童 B は「親切にするとどのようなことか」という問いに対して、本教材の使用時は「おばあさんの荷物を持つ」と回答したが、授業終盤では「相手がうれしいことをする」と回答しており、親切にされる側の視点に立って考えられていたと言える。授業場面の発話に着目すると、児童 B は「親切にしたのに怒られたことがある。」という児童 A の発言を聞き、「(親切にすることについて)相手がどう思っているかわからない。」とつぶやいた。これらのことから、議論の中で他者の意見を取り入れて、「親切にすること」についてのイメージが変容したことが推察された。したがって、本実践における充実した議論を通して、児童らの多面的・多角的な思考を促し得たことが示唆された。

## 4. まとめ

本研究は、反転授業用シナリオベース教材を用いた物語の内容把握の後に、対面による授業を実践した。その結果、議論の充実を通して、多面的・多角的な思考を促し得たことが示唆された。今後の課題は、GIGA スクール構想の実現に向けた学校教育において、反転授業の効果を検証することである。

## 参考文献

瀬戸崎典夫, 三重野愛(2020)特別の教科道徳における反転授業用シナリオベース教材の開発と評価, 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集 6(1-2), 11

(指導教員 中村 千秋:義務教育開発講座)